

平成21年度事業
夢たま補助金(市民提案型まちづくり事業補助金)

成果報告書



多摩市 くらしと文化部市民活動支援課

平成 22 年 7 月

目次

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要.....	1
審査・評価の方法	1
審査委員(第2期).....	2
平成21年度応募事業の経過	3
平成21年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表	4
各事業の成果(以下事業名)	
<チャレンジ部門>	
(1)第3回ニュージーランド・中学生語学研修.....	5
(2)「赤ちゃんや幼児がいる家庭の防災ハンドブック」制作プロジェクト.....	7
(3)実践的かつ自律的な自主防災活動を.....	9
(4)多摩丘陵の資源を活かした特産品づくり	11
(5)ITバリアフリー旅行情報 多摩版構築事業.....	13
<ステップアップ部門>	
(1)運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施	15
(2)ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に.....	17
(3)人間ばん馬の街・置戸 -自然環境と都市生活を体験する交流事業	19
(4)第22回文庫展 子どもと本の広場 -本の世界で遊ぼう.....	21
(5)市民製作映画『多摩ニュータウンわたしの街』上映	23
(6)小学校にホタルを蘇らし環境保全に取り組もう.....	25
(7)こども古典芸能体験教室	27
(8)市民がつくる生活安全・安心ガイド事業.....	29
(9)多摩市におけるトラベルボランティア組織活性化事業	31
(10)第19回映画祭 TAMA CINEMA FORUM.....	33
(11)「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver4.0.....	35
(12)貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり.....	37

平成21年度 市民提案型 まちづくり事業補助金

募集!

多摩市のまちづくりに役立つ事業を応援します。

市民提案型まちづくり事業補助金は、福祉、子育て、文化、環境などの特定の分野やテーマの限定はありません。一過性の事業ではなく、その後の事業展開を通じ継続して多摩市に定着させることを目指し、さらなる広がりや期待させる公益性のある事業に対して、その事業費の一部を補助します。

チャレンジ部門とは?

事業の見通しの不透明
がちな、初期の段階で
・補助対象経費の80%
・総費用：30万円
・2回（2年制）まで
※ チャレンジ部門は

対象となる団体の条件

・10人以上で構成され
・活動拠点が市内にある
・地割・金財等があり、
※ その他詳しくは募集

募集要項・申込書の取

配布期間：平成20年
10月3日（金）
配布場所：
①市役所4階 市民生活
情報センター
②余山公民館（パルコ
会多摩センター駅前
会NPOセンター
③多摩市公民館ホーム
<http://www.city.tama.lg.jp>
よりダウンロード

市民提案型 まちづくり事業補助金 公開プレゼンテーション!!

平成21年度「市民提案型まちづくり事業補助金」は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ事業として、その

事業費の一部を補助
各団体から提案され
と、「公開によるプ
て、補助金交付の

当日は、各
の展示もあり
皆さんも副
こ賞になり、
を一緒に考え
多摩のこま



プレゼンター
多摩市民生活

夢たま補助金（市民提案型まちづくり事業補助金） 21年度事業成果報告会

とき：平成22年7月4日（日）

場所：開戸公民館市民ロビー
市民活動情報センター
（聖蹟桜ヶ丘ヴィータ7階）



〈第1部〉成果報告：開戸公民館市民ロビー

（午後1時～3時20分）

21年度にこのまちづくり補助金を使って市民のためにどんなことができただろうか・・・各団体の活動経過と成果を皆さんに報告します。いろいろな立場を知るチャンス！みんなで観覧しよう!

〈第2部〉情報交換会：市民活動情報センター

（午後3時30分～5時30分）

〈テーマ〉事業成功のヒントがあるかも!

（事業を成功させるために、みんなの意見を聞いてみよう）

事業を進めるための苦労や悩んでいることなど、情報交換するなかで何かのヒントが発見できるかもしれません。そして、団体同士のネットワークづくりの絶好のチャンスです。

COME ON!

1部には手話通訳者が付きます



【問合せ】市民活動情報センター

住所 〒206-0011

多摩市開戸4-72 聖蹟桜ヶ丘ヴィータ7階

TEL 042-376-8312

FAX 042-339-0491

「夢たま補助金(多摩市市民提案型まちづくり事業補助金)」の概要

この補助金は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ公益的な事業に対し、事業の経費を一部補助するもので、多摩市に「新たな支え合い」の担い手を多数創出して、地域の公共サービスを豊かに展開していくことを目指したものです。

補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会）による厳正な審査を経て決定します。

平成 21 年度審査・評価の方法

予備審査：（形式審査）

必要要件の不備がないか等の形式審査

本審査（書類選考・プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

（平成 20 年度事業の募集から審査・評価の方法を一部改正しました。）

【補助対象事業の基準】 か×で評価する。過半数の委員が×の場合は、選外となる。

項目	対象事業	内容
補助金交付の公益性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く多摩市民に開かれた事業であること ・ 事業の効果が不特定多数の市民に広く及ぶこと。サービスの対象者だけでなく、他の市民や他の地域、社会全体への「広がり」や「波及効果」が認められること。 ・ 事業あるいは本補助金の主たる受益者が、応募団体の構成員や特定の人を対象となる事業でないこと。
事業の継続性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで継続してきた事業をさらに発展させ、広げ、定着させていくことを目指した内容であること。 ・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、まずベースとなる継続事業があり、申請内容がベースとなる事業のその後の事業展開に有効であることが認められること。

【事業についての基準】 各委員が各項目 5 点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
事業の目的と効果	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的と効果が明確か。 ・ 時代の要請や社会状況、市民ニーズに即したもののか。 ・ 市民の税金を使ってその事業を支援することについて、広く市民の共感が得られ応援したくなる内容か。
実現性	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該年度の事業が、実現可能な方法、スケジュール、予算で立案されているか。

期待度	チャレンジ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発送、着眼点、手法などに市民ならではの先駆性や独創性、工夫があり、今後の展開に期待がもてる事業か。 ・ 今後継続し、定着させていくことを目指す事業か。 ・ 申請内容がイベントや調査などの単発型事業の場合でも、その後の展開に有効であることが期待できるか。
自立性	ステップアップ部門のみが評価の対象となります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本補助金が終了した後、その事業をどのように継続していくかの事業計画・資金計画が明確で妥当か。 ・ 本補助金だけに頼らない資金確保に努めているか。 ・ 自立に向けて、一般市民や他の市民団体、企業などとのネットワークを広げ、連携し、巻き込んで行く視点があるか。

【団体の基準】 各委員が各項目 5 点満点で評価します。

項目	対象事業	内容
団体の適正等	チャレンジ部門 ステップアップ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営が閉鎖的でなく、広く開かれた組織か。 ・ 申請する事業を行うにあたって適正な規模内容を保有しているか。 ・ 事業の規模に見合った自己負担能力を有しているか。

【プレゼンテーション】

関戸公民館（ヴィータ）の市民ロビーにて、公開によるプレゼンテーションを実施します。書類審査を重要視しますが、書類上読み取れない点や疑問点についてはプレゼンテーションを参考に評価します。各委員は、上記審査項目単位に素点を振り、順位を決定します。（審査委員の過半数が×の評価を付けた事業は、選外となります。）

各委員の順位を平均したものが、委員会としての『補助金交付の優先順位』となります。

審査委員(第2期)任期:平成 19 年 8 月 23 日から平成 21 年 8 月 22 日まで

21 年度応募の審査は、第 2 期の審査委員下記の委員により審査を行いました。

委員長：炭谷 晃男 学識経験者（大妻女子大学教授）
 副委員長：松本 祐一 学識経験者（多摩大学総合研究所 准教授）
 委員：小澤 尚子 学識経験者（小澤税理士事務所 所長）
 委員：寺田 桂子 学識経験者（フラワーオフィス草苑代表）
 委員：遠藤 ちひろ 公募市民
 委員：菊池 武信 公募市民
 委員：東 操 公募市民



平成 21 年度事業の経過

説明会：平成 20 年 8 月 9 日（ベルブ永山） 8 月 21 日（市民活動情報センター）にて本補助金の主旨や申請に関する説明会を開催し、延べ 8 団体 9 名の参加者がありました。

募集・受付：平成 20 年 9 月 1 日から 10 月 3 日まで
チャレンジ部門に 6 事業、ステップアップ部門には 13 事業（合計 19 事業）の応募がありました。

書類審査：平成 20 年 11 月 11 日、12 月 2 日

応募事業のパネル事前展示：平成 20 年 12 月 8 日から 12 月 14 日

公開審査：公開プレゼンテーション：平成 20 年 12 月 14 日（日）関戸公民館市民ロビー

- 各事業 8 分 + 質疑応答 7 分（合計 15 分）で、19 事業のプレゼンテーション及び審査を行いました。
- 応募 19 事業の内 2 件が選外となり、17 事業総額 7,199,000 円を事業開始時に概算交付しました。



応募事業の実施：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

成果報告会：平成 22 年 7 月 4 日：関戸公民館市民ロビー

17 事業の成果報告会及び情報交換会を実施。

決算額 17 事業の総合計：6,733,000 円

5 ページ以降に各団体の活動内容・自己評価表、収支決算の内訳表を掲載しています。

平成 21 年度 夢たま補助金（市民提案型まちづくり事業補助金）交付額・精算一覧表

（単位：円）

（チャレンジ部門）

優先順位	整理番号	事業名 (団体名)	希望補助額 (円)	希望補助率	交付決定額 (円)	決算額 (円)	応募事業内容(概要)
5	C-1	第3回ニュージランド・中学生語学研修 (NPOスポーツ文化国際交流協会)	220,000	80%	220,000	177,000	多摩市・近隣市の中学生を対象に、ニュージランドへホームステイをしながら語学研修と交流を行い、相互の異文化を体験しながら理解促進に寄与する。 (補助金申請内容は、事前の募集と事後報告会に関する費用)
1	C-2	「赤ちゃんや幼児がいる家庭の防災ハンドブック」制作プロジェクト (NPO法人シーズネットワーク)	300,000	65%	300,000	300,000	乳幼児の家庭向け「防災ハンドブック」を作製する。 作製にあたっては、子育て中の母親を対象に事前に講座を開催し、講座参加者からメンバーを募り冊子の構想をまとめる。
2	C-3	実践的かつ自律的な自主防災活動を (東寺方自治会)	128,000	80%	128,000	82,000	自治会が近隣自治会や商工会、PTA、青少年協、敬老会など各種団体はもとより近隣大学のボランティアサークル、NPOなどと共に関東大震災を想定した炊き出し訓練・防災講演会などを実施する。
選外	C-4	水路沿いのコミュニティガーデンづくり～散歩道の景観を自分たちの手で (コレクティブハウス聖蹟 居住者組合)	300,000	75%	選外	-	コレクティブハウス居住者と近隣住民の参加・協力を得て、敷地周辺の緑化とコミュニケーション・ネットワークを広げて行く。
3	C-5	多摩丘陵の資源を活かした特産品づくり (やきもの世代交流会)	300,000	80%	300,000	199,000	多摩丘陵の資源や人材を活かして企業・団体・個人とネットワークを組み、地域の産物を紹介するホームページを作製し、販促を図る。
4	C-6	ITバリアフリー旅行情報 多摩版構築事業 (NPO法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク)	300,000	60%	300,000	300,000	障がい者や虚弱な高齢者などが外出できるように、車椅子対応のトイレを調査して、インターネット上で紹介する。
小計		申請件数:6件、交付決定件数:5件	1,548,000		1,248,000	1,058,000	

（ステップアップ部門）

優先順位	整理番号	事業名 (団体名)	希望補助額 (円)	希望補助率	交付決定額 (円)	決算額 (円)	応募事業内容(概要)
4	S-1	運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施 (連光寺/聖ヶ丘地域スポーツ振興会)	133,000	25%	133,000	133,000	連光寺及び聖ヶ丘地域のスポーツ、及びレクリエーションの普及、振興を通じて地域住民と周辺住民のコミュニケーションと健康促進をはかる。
5	S-2	ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に (聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会)	115,000	50%	115,000	115,000	季節に応じた花苗や球根の植込み・育成を中心に花壇や法面を利用した「山野草園」の維持・管理を行う。また、地域住民と周辺住民を対象とした「自慢の一鉢コンテスト」や「鉢植え体験教室」などを開催してこの事業への関心を高める。
選外	S-3	夏休み！こどもミュージカル体験公演(ジュニア・プラネット) (ジュニア・プラネット)	1,090,000	60%	選外	-	市内在住の4歳～小学生を対象に、ミュージカル体験希望者を募集、プロの指導者から指導を受け、プロの劇団員と共演・公演する。
9	S-4	人間ばん馬の街・置戸 - 自然環境と都市生活を体験する交流事業 (永山地区・置戸町の交流を進める会)	108,000	60%	108,000	102,000	永山地区と北海道置戸町の子どもたちが隔年でホームステイをして、世代を超えた人達との交流などにより、自主性・協調性を養うと共にそれぞれの街に対する意識の高揚を促す。
6	S-5	第22回文庫展 子ども本の広場 - 本の世界で遊ぼう (多摩市文庫連絡協議会)	245,000	60%	245,000	221,000	文庫活動を多くの人達に伝えるために「第21回文庫展」を開催する。絵本の原画を見たり絵本作家の講演を聴くことで絵本のすばらしさを感じてもらいお話を通じてお話の楽しさを体感してもらおう。
11	S-6	市民製作映画「多摩ニュータウンわたしの街」上映 (多摩ニュータウン映画製作委員会)	1,350,000	54%	700,000	700,000	「発信しよう！ふるさとニュータウンの元氣と誇り」をテーマとし、ドキュメンタリー映画「多摩ニュータウンわたしの街」を広く全国で上映する。全国に先駆け市内・近隣市で上映会を開催する。
3	S-7	小学校にホテルを蘇らし環境保全に取り組もう (東寺方自治会)	160,000	59%	160,000	20,000	自治会を中心として東寺方小学校児童、その父兄、近隣中学校の協力のもと谷戸池にホテルを増やし、自然環境の意識啓発、家族・地域連帯の絆を強める一助とする。
10	S-8	こども古典芸能体験教室 (多摩市古典芸能に親しむ会)	400,000	30%	400,000	399,000	多摩市内の小・中学生、父母、教師を対象に、古典芸能のプロによって和楽器や日本舞踊などの古典芸能をわかりやすく紹介しながら、演奏・日本舞踊などを体験してもらおう。
12	S-9	市民がつくる生活安全・安心ガイド事業 (NPO法人多摩サロン)	2,500,000	60%	600,000	495,000	バリアフリー、防災、防犯、交通安全、子育て支援、介護・福祉・病院など日常生活に必要な情報を生活便利帳(マップ)とインターネット上で公開する。
7	S-10	多摩市におけるトラベルボランティア組織活性化事業 (NPO法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク)	784,000	60%	784,000	784,000	高齢者・障がい者の方(外出が困難な方)を対象に旅行の手助けする組織化と、地域の団体と交流しながら家に引きこもらない取り組みをしていく。
1	S-11	第19回映画祭TAMA CINEMA FORUM (TAMA映画フォーラム実行委員会)	2,137,000	14%	2,000,000	2,000,000	日本映画の活性化と市民による「映画・映像」を通じた「まち」づくりを大きな目的として、若手映像作家の発掘と映像の街・TAMAを全国にアピールし、活気のある街にする。
2	S-12	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver4.0 (Artists Link Tama)	630,000	42%	630,000	630,000	「多摩＝音楽に溢れた街」という街のブランドイメージを内外へ積極的に発信していくために、地元の商店街や各種NPO団体との連携を図り、イベント企画や運営サポートなどを行う。また市民に音楽を演奏できる場を提供するためのバンド運営を行う。
8	S-13	貝取こぶし館と周辺の美化と癒しの環境づくり (貝取こぶし館 緑花委員会)	76,000	60%	76,000	76,000	地域から公募した緑化委員が、貝取こぶし館周辺(施設外)の花壇や法面等の整備と維持管理を行う。また、地域住民と周辺住民を対象に「挿し木の講習会」などを実施して、この事業に対する関心と美化に対する意識を高揚させる。
小計		申請件数:13件、交付決定件数:12件	9,728,000		5,951,000	5,675,000	
応募時点		合計 19件	11,276,000				
審査時点		合計 19件	11,276,000		7,199,000		
交付決定(決算時点)		合計 17件			7,199,000	6,733,000	

事業名	第3回ニュージーランド・中学生語学研修
団体名	NPOスポーツ文化国際交流会
事業の目的	<p>多摩市の将来を担う子どもたちに早くから国際感覚を持たせ、感性豊かな人材を育てることがこの事業の大きな目的であり要です。現地では思うように会話が出来なく、悔しい思いをして、帰国後英語に目覚めて英検にチャレンジする子どもが多く見られます。又将来ニュージーランドで日本人教師として働きたいと言う子どもまで出て参りました。</p> <p>この事業が「子どもの向上心」の大きなきっかけになっていると思われ目的が達しています。一年で20人でも十年間で200人、是非継続したい。</p>
主な事業実施内容	<p>21年4月:募集ポスター、チラシを配布、教育委員会便りに掲載</p> <p>21年5月:新型インフルエンザ流行により中止決定</p> <p>22年2月:報告会</p> <p>22年3月:報告会</p>
参加者	-名
事業の成果	<p>前年度までの広報活動は、市内小学校に出向き校長先生・PTA 総会等々で一生懸命チラシ配りを致しましたが、子どもたちから父母に殆ど渡らなかったが、今回初めて教育委員会便りによるPRができたことで大変大きな成果が得られた。</p> <p>この事業は、一般の業者とは違う、行政の絶大なる支援を得て今後とも、低料金で市内の子どもたちに国際感覚を学んで貰いたいと願います。</p> <p>なお、ハミルトン市とは行政の事業と私たちのNPOとで来年で十年目になり、しっかりとした信頼関係が築かれた間柄です。</p>

総事業費	221,886 円
補助対象経費	221,886 円
補助額	177,000 円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	ほとんどできなかった
できなかった主な理由	世界的インフルエンザの為事業中止
計画時に期待した効果をあげることができましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	事業は大変素晴らしいとの評価が多くありました。何故行政が続けられなかったか残念の意見あり。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	全ての面で募集方法、写真展、報告会、ポスター、チラシ等だんだん良くなっていると思います。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	事業の自立の為には当法人が認定法人になること、改善点は殆ど無いと思います。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	44,886 円	
夢たま補助金	177,000 円	
収入合計	221,886 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	164,370 円	ポスター、チラシ、広告費など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	46,000 円	永山公民館、総合体育館会議室
保険料等	0 円	
その他必要な経費	11,516 円	事務用品、振込み手数料
補助対象経費合計	221,886 円	

事業名	赤ちゃんや幼児がいる家庭の防災ハンドブック制作プロジェクト
団体名	NPO法人シーズネットワーク
事業の目的	忙しい子育て生活のなかで気軽に「防災」に取り組むきっかけとなる「防災ハンドブック」を制作し、子育てファミリーの防災意識を高める一助とする。子育て中の父母が冊子作りに参加することにより、社会参画のきっかけ作りも目的とする。
主な事業実施内容	<p>21年4月:ワークショップ講師依頼、ワークショップ参加者募集チラシ作成等</p> <p>21年5月:「たま広報」でワークショップ参加者募集告知、講師と運営等の打合せ</p> <p>21年6月:ワークショップ実施(3回)、防災アンケート実施(市内児童館全館)</p> <p>21年7月:防災ハンドブック編集参加者を募集。当会ホームページに「防災ハンドブック活動」コンテンツ制作。第1回編集会議(各ページ構成・ラフレイアウトの作成)</p> <p>21年8月:第2回編集会議(各ページのラフレイアウト、取材、原稿執筆)防災安全課へ取材。</p> <p>21年9月:第3回編集会議(仮ページを制作)立川防災館へ取材。多摩市総合防災訓練に参加。</p> <p>21年10月:各自で取材、原稿執筆。イラストレーターと調整</p> <p>21年11月:第4回編集会議。(初稿を確認しながら、冊子全体をまとめる打合せ)</p> <p>22年1月:冊子「赤ちゃんや幼児がいる家庭の防災ハンドブックA B 0」(以下、A B 0)納品。地域ふれあいフォーラムに参加・A B 0を販売。</p> <p>22年2月:東寺方自治会の防災訓練に参加、A B 0販売・出展。</p> <p>22年2月:A B 0発行記念イベント実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子防災講座 講師:あんどうりす氏 ・被災した方と考える「地震の備え」パネルディスカッション ・防災資料・グッズの展示、防災DVDの放映 <p>22年1月~:多摩市内3施設で特別無料配布。団体向け無料提供先募集・配布</p>
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・A B 0制作活動参加人数 10名 ・A B 0発行イベント来場者数 80名(スタッフを含む) ・A B 0発行部数 2000部 <p>配布・販売冊数 1381冊(3/10現在。団体向け無料配布分を含む)</p> <p>在庫(617冊)は引き続き配布、販売中。なお内500冊は平成22年度の啓発活動において使用予定</p>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドブック作成にあたり乳幼児をもつパパママに参加してもらったことで、目的どおり、当事者目線の冊子をつくることができた。 ・3/10までに、当初設定した目標を上回る124冊を販売、さらに配布拠点3ヵ所と市内児童館、団体向け無料提供等で1257冊を配布したことにより、乳幼児をもつ家族が防災の意識をもてるようなきっかけづくりができた。 ・A B 0の完成、およびイベント開催について、読売新聞、東京新聞、アサヒタウンズ、FM多摩、多摩テレビなど、各メディアから取材を受け、乳幼児をもつ家庭が防災意識をもつことの大切さについて広く告知することができた。 ・既に防災活動を進めている団体や行政の関係各署とのネットワークを築けた。

総事業費	536,395円
補助対象経費	457,644円
補助額	300,000円

補助対象経費の
決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	<p>防災アンケートの結果からも「気にはなっているが、なかなか時間が作れない」「何をしたら良いのかわからない」との回答が多くあり、防災情報をコンパクトにまとめた冊子のニーズを強く感じた。</p> <p>また、子育て支援等に関わる団体への無料提供(1団体20冊)に対して26団体から応募があり、当事者のみならず、当事者に情報を届けたいと考える支援者にもニーズもあることがわかった。</p>
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<p>目に見え、手に取れる物が身近にあると言う事が大切だと思うので、その点から言えば、乳幼児を子育て中のママ・パパ向けの情報を集めた防災ハンドブックが制作できたことは大変良かった。</p>
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	<p>まずは、「防災」に興味を持ってもらう事が大切だと感じた。冊子を活かしていってもらえるような事業を続けて考えていきたいと思う。</p>

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
他の補助金	120,000 円	公益信託多摩まちづくりファンド助成金
参加者収入	5,500 円	ワークショップ参加費
販売収入	24,800 円	ABo 販売収入
自己資金(負担)	7,344 円	
まちづくり事業補助金	300,000 円	
収入合計	457,644 円	

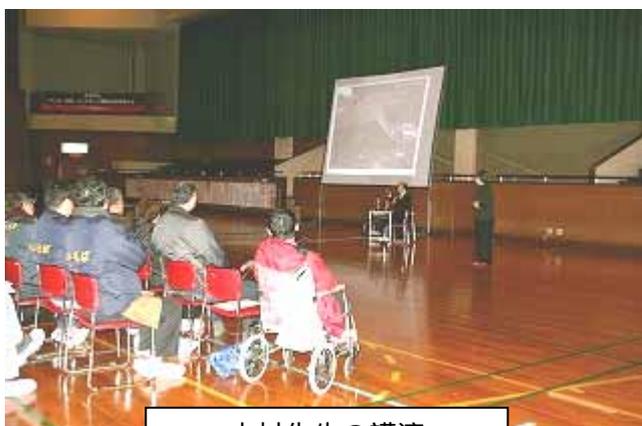
< 支出の部 >

人件費	62,500 円	記録、保育、イベント要員
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	90,000 円	ワークショップ、防災講座講師など
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	167,122 円	チラシ、冊子印刷、事務用品など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	105,290 円	イラスト、冊子デザイン料
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	15,750 円	ワークショップ、冊子完成披露
保険料等	5,000 円	障害保険
その他必要な経費	11,982 円	振込み手数料、通信、租税公課、駐車場
補助対象経費合計	457,644 円	

事業名	実践的かつ自律的な自主防災活動を
団体名	東寺方自治会
事業の目的	近隣自治会や商工会など各種団体との協働による、実践的かつ自律的な自主防災活動体験を通じて、防災意識の高揚をはかりたい。特に大地震発生時での要援護者への救援体制のあり方やスムーズな避難訓練方法を構築し、そのノウハウを他の地域に伝播して、“ソフト面からも防災体制がしっかり整備された多摩市“となる一助にしたい。
主な事業実施内容	2月13日：関東大震災級の震災を想定して、総合体育館へ参集訓練を行った。防災の第一人者である山村武彦先生の講演会、AED取扱い訓練(国士舘大学協力)、はしご車・起振車を体験した。
参加者	280名
事業の成果	<p>近隣の自治会や商工会、祭の会、PTA、青少協、敬老会、民生委員、京王SC、京王バスなどの企業はもとより、国士舘大学のボランティアサークル、NPOも誘って、関東大震災級の大地震が2月13日に発生したことを想定して、避難所の総合体育館に参集訓練をした。</p> <p>多摩市総合体育館第1スポーツホールで山村先生の講演を聴き、災害対応力を養うことができた。消防、警察、第6分団、社会福祉協議会、夢たま補助金で知り合ったNPOシーズネットワーク、多摩市総合防災訓練で宿泊訓練をともにした聴覚障害の方々、ちいろばの家、啓光学園の身障者の方々、都立桜の丘学園の生徒家族も参加され、防災意識の高揚をはかれたともに、ノーマライゼーションの実践ができたのではないかと考える。</p> <p>昨年の550名の防災訓練と今回の取り組みが東京都の消防総監賞と国からの理事長賞のダブル受賞につながったと考える。</p>

総事業費	122,695円
補助対象経費	102,695円
補助額	82,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



山村先生の講演



はしご車体験

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	講演会の内容が実践的で大変有益であったとの大きな評価を企業(京王SC)、民生委員をはじめ多くの方々から頂きました。自治会の役員会でも山村先生の講演内容は好評でした。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	みぞれ交じりの寒い一日でしたが、280名の参加を得られたことは満足しています。体育館とは1年近く前から日曜日をお願いしていましたが、土曜日になってしまい、動員に困難を伴いました。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	40,695 円	
まちづくり事業補助金	82,000 円	
収入合計	122,695 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	30,000 円	講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	47,991 円	防災旗、その他事務用品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	3,000 円	温風機
イベントなどの会場等の使用料	82,000 円	総合体育館、道路使用
保険料等	13,024 円	損害保険、賠償保険
その他必要な経費	480 円	送料
補助対象経費合計	102,695 円	

事業名	多摩丘陵の資源を活かした特産品づくり
団体名	やきもの世代交流会
事業の目的	地域で“ものづくり”している人的資源を広く開発し、多摩市の特産品・手土産化を図る。
主な事業実施内容	4月6日:多摩大ゼミにて多摩特産品づくり参加の呼びかけ 6月9日:同大学生(ゼミ生)と打ち合わせ 1月25日~27日:多摩焼展(ベルブ永山) 1月30日:地域ふれあいフォーラム(ヴィータさくら広場) 多摩特産品即売会(多摩大生参加) 2月12日:多摩大地域プロジェクト報告会 (多摩の手土産づくり支援) 3月22日・26日:多摩土精製作業(多摩大生) 3月25日:ホームページ作成打合せ(株)マグネット・デザイン、多摩大生)
参加者	多摩焼製作者30人、即売会団体6、来場者500人、販売個数約500
事業の成果	即売会参加団体:多摩市酒販組合、多摩市農産加工組合、多摩ニュータウン映画製作委員会、(有)ドングリクッキー、東寺方自治会、多摩焼作陶者30人 産・官・学・民が協働して多摩市の特産品イベント事業により多様な人的資源開発効果があり、多くの人々の「生きがいワーク」につながった。

総事業費	249,471円
補助対象経費	249,471円
補助額	199,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
期待した効果が、あまりあげられなかった理由	ホームページは今後修正が加えられ、効果が判明するのはこれからである。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	多摩特産品展・即売会は年1回で、今年度3回目となる。 市民の方には、徐々に知られるようになり販売数も定着してきた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	産・官・学・民協働して、多摩市の弱みである産業を立ち上げるきっかけになるだろうと、これからも努力したい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	より多くの団体・個人・が参加するようになれば、生きがいワークにつながることは間違いないと思います。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
自己資金(負担)	50,471 円	
夢たま補助金	199,000 円	
収入合計	249,471 円	

< 支出の部 >

人件費	12,000 円	粘土精製
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	37,141 円	粘土代
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	200,000 円	ホームページ製作
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	330 円	振込み手数料
補助対象経費合計	249,471 円	

事業名	ITバリアフリー旅行情報 多摩版構築事業
団体名	NPO法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク
事業の目的	身体が不自由になってきた人々の外出の一番の心配ごとは、排泄である。 車いすで近づけるトイレがどこにあるか、どのようにアプローチするのか、何時まであいているのか。この事業では土日祭日、夜間にあいている多摩市内の車いす用トイレを調べて、ひとつのトイレについて20項目以上のチェックと写真と地図を掲載した。オストメイト対応のトイレも掲載。
主な事業実施内容	21年7月:多摩市内の障がい当事者で取材ができる団体を探した 21年9月:取材項目と多摩市内の車いす用トイレの所在地をリストアップ 21年10月:重度障がい者の団体と会合を繰り返し、取材を依頼 21年11月~12月:多摩市のトイレの所在地情報から、およそ100軒の車いすトイレを取材し、内78軒を旅人が使いやすいトイレと認定した。 インターネットに公開する仕組みを、地図と写真1点を入れて編集作業 22年2月:「旅人が使いやすい車いすトイレ案内78多摩市」をインターネット上で公開。 http://www.tabicommon.com/tokyo/tama/
参加者	グーグルのアクセス解析によると、現在1日のアクセス件数は50~100件
事業の成果	多摩市に来る旅人、外出に不安をかかえる多摩市民が多摩市内の車いすトイレの所在地、設備、アプローチ方法を知ることによって、スムーズに外出を行えるようになった。外出支援者も検索しやすい。 また、マークで示すトイレが多い中、ひとつの車いすトイレに1ページを使い、20項目以上の取材項目を掲載したので、その1枚をプリントアウトすれば、外出するのに不安が少ないだろう。多摩市の起点の駅は、聖蹟桜ヶ丘、永山、多摩センター、唐木田の4つの入り口駅を基点に車いすトイレの案内を構築した。排泄は待たないであり、土日祭日、夜間に利用できるトイレ情報に特化した取り組みは初の取り組みである。

総事業費	404,389円
補助対象経費	404,389円
補助額	300,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	排泄は待たないであり、夜間、土日祭日にあいており、オストメイト対応も明記し、外出時に飛び込むアプローチ方法も記載されているので、役立つとのこと。重度の障がいを持つ人も外出を断念しないですむ。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	公的機関、福祉施設に車いすトイレがあるのは当然である。必要なのは、夜間や土日祭日に利用可能なトイレであり、それを反映できた。本当に市民に役立つものが創れたと考える。マークを使用せず、取材者のつぶやきや暖かみを出すことで、友人が伝えているような雰囲気を出せた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	経費が出れば、駅の詳細や紙媒体を創ることが求められているが、小さなNPO法人の範囲では資金的に難しい。多摩市にある障がい者、高齢者に旅をすすめるNPO法人として、多摩市民に長く有益な車いすトイレ情報を、障がい当事者の人々の協力を得て構築できたのは良かった。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
自己資金(負担)	149,389 円	
夢たま補助金	300,000 円	
収入合計	404,389 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	100,000 円	取材・執筆経費
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	4,389 円	インク、紙
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	300,000 円	ホームページ製作経費
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	404,389 円	

事業名	運動会、レクリエーション等の立案企画とその実施
団体名	連光寺 / 聖ヶ丘地域スポーツ振興会
事業の目的	連光寺 / 聖ヶ丘地域のスポーツ、及びレクリエーションの普及、振興を通じ地域住民のコミュニケーションと健康促進をはかる。 実施事業 ハイキング大会 地域運動会 ミニマラソン大会
主な事業実施内容	4月19日:ハイキング大会(大谷戸公園他) 10月18日:地域大運動会(聖ヶ丘中学校) 2月11日:ミニマラソン大会(天候不良のため、中止) 各事業の前後に実行委員会(準備打ち合わせ等)
参加者	参加者:連光寺・聖ヶ丘地域住民 ハイキング大会:150名、運動会:1400名
事業の成果	この事業を通じ連光寺 / 聖ヶ丘地域のコミュニケーションを図り親密の密度高揚と健康促進が図れた。 地域の各種団体(コミュニティーセンター、青少協、防犯協会など)と協力し、補完し合い相互の目的達成の相乗効果を目指す運動会では、地域で行われている文化活動の発表の場を提供出来た。 地域との連携強化により、多摩大学、聖ヶ丘小中学校生徒によるボランティア活動の拠点としての環境作りを実現できた。

総事業費	407,804 円
補助対象経費	407,804 円
補助額	133,000 円

補助対象の決算内訳は、次ページ



運動会：竹トンボ教室



運動会：招待した高齢者の前を幼児が走る

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	運動会に於いて、竹トンボ教室、フォークダンスなどで地域住民の親睦と健康推進に大いに貢献できた、また今年度も有料老人ホーム高齢者の招待を実施し戸外に出て健康の維持、心の健康などを育成する交流の場として受け入れられた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	地域を考えた(幼児、子ども、大人、高齢者)事業は、将来提案の展望が見えた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	今後、大栗川地域スポーツ振興会、貝取地域スポーツ振興会との連携を考えに入れた事業を進めていきたい。

補助対象の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
ハイキング参加費	10,100 円	
地域協賛金	210,000 円	
銀行利息	544 円	
自己資金(負担)	54,160 円	
まちづくり事業補助金	133,000 円	
収入合計	407,804 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	55,000 円	運動会講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	221,723 円	プログラム印刷、資料印刷・コピー、聖火トーチ、賞状など消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	34,820 円	レンタカー
イベントなどの会場等の使用料	6,710 円	打ち合わせ：ひじり館、大谷戸公園使用料
保険料等	57,730 円	
補助対象経費合計	407,804 円	

事業名	ひじり館を花いっぱい「和みの広場」に
団体名	聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会
事業の目的	「ひじり館」の周辺を季節の花々で飾り、当館を訪れる人や周辺住民のための「和みの広場」にすると共に、地域のコミュニティの場として貢献して行くことを目的とする。
主な事業実施内容	21年5月:箱根湿性花園視察 21年6月:花いちば(鉢花交換会)開催 21年11月:一鉢コンテスト実施 通年作業:花壇清掃、散水、除草等管理作業
参加者	作業及び行事への参加は約50名
事業の成果	市民提案型まちづくり事業補助金の交付を受けながら、運営協議会の中では、「花壇プロジェクト実行委員会」として約10名のメンバーをもってこの事業を実施してきた。花壇や山野草園を含む周辺の整備も進み、季節に応じた花々は来館者や周辺住民の心を和ませ、惹いては地域コミュニティの場としての役割も十分に果たしているものと確信している。 次年度を最後に補助金が打ち切りとなるが、自立のための収益確保をはかりつつ、当初の目的として掲げた地域貢献を果たして行きたい。

総事業費	258,401円
補助対象経費	218,605円
補助額	115,000円

補助対象の決算内訳は、次ページ



ひじり館前の花壇



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	自宅に余っている花鉢の交換を目的とした「花市場」や、ひじり館のイベントに参加しての模擬店の出店などを実施して参加者や来館者に好評を得ることが出来たので、これからもこのような様々な企画を続けて実施して行きたい。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	季節の花々を植えて来館者の気持ちを和ませると言う目的は充分達せられていると思う。また周辺住民や通り掛かりの人たちからの労いの言葉やお礼の言葉も多く聞かれ、「ひじり館」を中心としたコミュニケーションの輪も一段と大きくなってきたように見受けられる。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	花をベースに収入を得、それだけで自立して行く事は大変難しいので、運営協議会の支援を頂きながら、各種イベントに参画してこの事業をPRしながら収益の確保を図って行くと共に、「花壇プロジェクト」への新メンバーの参加を推進して行きたい。

補助対象の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
売上金収入	7,095 円	花いちば売り上げ金
手数料収入	44,000 円	広報紙配付手数料
自己資金(負担)	52,510 円	
まちづくり事業補助金	115,000 円	
収入合計	218,605 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	218,605 円	資材、用具、消毒薬、用土、肥料、花苗など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	218,605 円	

事業名	人間ばん馬の街置戸 自然環境と都市生活を体験する交流事業
団体名	永山地区・置戸町の交流を進める会
事業の目的	永山地区の子どもたちと置戸町の子どもたちが隔年毎にそれぞれの街を訪れ、ホームステイをしながら親元を離れての生活、世代を超えた多くの人たちの交流などにより、子どもたちの自主性・協調性を養うと共に自然環境や生活スタイルが大きく異なる大都市東京の生活の様々な体験を通じて意識の高揚を促すことを目的とする。
主な事業実施内容	7月28日:永山地区の子どもたちの歓迎交流、ホームステイ先へ 7月29日:永山の子どもたちと富士山まかいの牧場で交流 7月31日:国会議事堂・NHKスタジオパーク、東京タワー見学 8月2日:江の島水族館、鎌倉・鶴岡八幡宮見学 8月3日:置戸町へ帰路
参加者	置戸町の子どもたち14名、永山地区の子どもたち延べ150名
事業の成果	北海道置戸町の子どもたちが大都市・東京多摩市の永山地区の生活実態を体験する。ホームステイを通じて子ども同志の交流、親元を離れての生活・永山地区の子どもたちと富士山やまかいの牧場での自然環境を通じて交流と体験が出来たと思います。 北海道ではできない大都市東京・多摩市の体験は、子どもたちの自主性・協調性を養うことができます。来年度は、永山地区の子どもたちが北海道の大自然にふれあうこととなります。

総事業費	171,205 円
補助対象経費	171,205 円
補助額	102,000 円

補助対象の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	この事業は地域の協力なくしては成り立ちません。ホームステイの確保等地域に根付いています。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	この事業は、子どもたちの成長過程で貴重な体験事業だと考えています。特に地域のコミュニティを形成する上で学校・地域の協力で地域力を付けていくことでも重要な事業と評価しています。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	この事業は地域に根付いたもので、子どもたちの育成を通じて地域力を育てる事業にしたいと思います。

補助対象の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	69,205 円	
まちづくり事業補助金	102,000 円	
収入合計	171,205 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	44,155 円	報告書作成・印刷費、歓迎会の消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	124,200 円	借り上げバス費用、駐車場
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	2,850 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	171,205 円	

事業名	第22回文庫展 子供と本の広場 本の世界で遊ぼうー
団体名	多摩市文庫連絡協議会
事業の目的	絵本や本は人類の叡智を伝え、生きる力を育てることができます。子育て中の親子や一般の大人にも絵本の持つ力を伝えるために、絵本の原画展、絵本作家の講演を行う。また、お話を通して、耳で聞くお話の楽しさを体感してもらう。読書環境を豊かにし、子育て支援の一環になると考えている。
主な事業実施内容	平成22年2月20日～2月24日まで：「第22回文庫展」開催 (藪内正幸 動物原画展、 「9ゾウくんげんきかるた」原画展) (展示：各文庫活動紹介、図書館・学校図書館活動紹介) (みんなであそぼう「えほんクイズ、フェルトでちくちくタペストリー作り」) (おはなし会) 2月21日：藪内正幸美術館館長・藪内竜太さんによる講演会、カルタ会「9ゾウくんげんきかるた」
参加者	来場者総数：1955名。(内、市内5保育園から416名参加)
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 今回は動物画家・藪内正幸氏の原画展だったから、例年に比べて男性の来場者が多かった。何度も見に来た人、じっくりと見入る人、ため息交じりに「この絵が大好き」などと、各人が藪内氏のすばらしい原画を堪能していた。園児も原画を見てから会場に置いてある絵本を手にとって楽しんでた。 高齢者のデイサービスからも原画展と展示を見に来てくれて、参加者の幅が広がり嬉しい。 生きがい文庫が展示した昔のおもちゃを手にとって遊ぶ子もいた。 原画を展示した「9ゾウくんげんきかるた」を使ったカルタ会は、午前中のせいか参加者はあまり多くなかったが、小さい子は親子で参加し一緒に楽しんでいた。 保育園からのおはなし会と原画展参加者は年々増えて大盛況。今年は赤ちゃん向けと園児向けと分けて設定したので、小さい赤ちゃんを持つお母さんたちもゆったり楽しめてよかった。 講演会は、高校生の藪内さんが、国立科学博物館勤務の動物学者・今泉吉典さんに見出されて、日本で初めて動物画家として歩むことになった話、小さいころから動物が大好きで、絵を描き、動物園に通いつめて動物の生態を研究していた話など、とても面白かった。中・高生にもぜひ聴いてもらいたかった。

総事業費	380,980 円
補助対象経費	369,154 円
補助額	221,000 円



補助対象経費の決算内訳は、次ページ

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	継続して行っている事業なので、毎年市内外から楽しみに来場してくれる。近隣の保育園5園は、年間のカリキュラムに組み込んで、クラス毎に原画展の鑑賞とおはなし会に参加してくれている。また、いきがいデイサービス施設から高齢者の参加も増えている。感想文にも、毎年続けてほしいという声が多かった。原画は大人の男性にも喜んでいただけたので、来場者の増加に繋がった。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	原画展、講演会の講師の選定から事業の中身を1年かけて準備し、原画展、講演会、文庫活動の展示など、長年の経験により積み重ねたノウハウを改めて感じた。一朝一夕にできるものではない。この実力を今年も多くの来場者に評価していただけた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	図書館児童サービスの市民協働の一環として捉えており、図書館法に則って無料が原則の事業である。自己資金を増やす努力もしているが、今年是人件費を削るなど、経費を抑える努力もした。 あと1回はこの補助金で事業は行えると思うが、その後同じ内容で継続することは難しい。講演会の講師謝礼、原画借用料など経費が大きいので、会場費が無料になるなど、資金援助がないと内容を縮小せざるを得ない。他自治体では図書館が主催しているところもある。市民協働を推進するなら、市民の自主性を担保しつつ市民と行政の役割分担をどのように協議していくか、今後も話し合いが必要だと思っている。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
協賛金	1,000 円	
頒布資料販売費	24,380 円	
自己資金(負担)	122,774 円	
まちづくり事業補助金	221,000 円	
収入合計	369,154 円	

< 支出の部 >

人件費	23,800 円	会場設営・撤収、イベント会場の受付等
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	20,000 円	講演会講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	41,430 円	頒布用資料、ポスター・チラシ作成、案内状作成、冊子作成、コピー
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	86,000 円	記録冊子印刷、ポスター印刷
機器類の賃借(レンタル)料等	90,000 円	絵本の原画借用料
イベントなどの会場等の使用料	50,600 円	公民館使用料
保険料等	17,680 円	原画借用の為の保険料
その他必要な経費	39,644 円	原画搬送、写真現像、通信料等
補助対象経費合計	369,154 円	

事業名	市民製作映画『多摩ニュータウンわたしの街』上映
団体名	多摩ニュータウン映画製作委員会
事業の目的	わたしたち委員会のテーマは、「発信しよう！ふるさとニュータウンの元気と誇り！」です。2008年3月に完成した市民の手づくりドキュメンタリー映画『多摩ニュータウン わたしの街』を、年間をとおし多摩市内および近郊で実施し、多摩市民としての誇りと様々な地域との交流をとおして新たなまちづくりの可能性を生む。
主な事業実施内容	4月3日～12日：すぐれたドキュメンタリー映画を観る会主催『見よ！この人を』上映 5月19日：東京農工大朝岡研究室にて「社会・環境教育ゼミ上映会」 6月21日：多摩センタークリニックみらいにて「医療シンポジウム上映会」 7月23日：永山公民館ベルブホールにて「公民館共催事業シネマ&トーク」 9月1日：DVD製作・販売／38分バージョン製作決定 10月9日：多摩市カバニーオーケストラ例会にて「38分バージョン映画上映とトーク」 11月1日：DVD販売開始 11月7・8日：グリナードふれあい広場にて「日本青年会議所イベント上映販売」 11月22日：福生市公民館「福生市公民館上映」
参加者	上映会トータル300名、DVD販売実数90本(2010年3月31日現在)
事業の成果	2009年4月からの上半期に開催した上映会で観賞いただいた方は約300人。2008年度(観賞者4000人)からさらなる発信のために、様々な団体との共催上映会を呼びかけたが、上映費用等が折り合わず小規模の上映会となった。そこで、下半期は上映会中心から、個人・団体でよりリーズナブルに観賞できるよう、DVDの製作・販売(市内価格2800円/ライブラリー価格10000円)を決定。10月いっぱいDVD500本と、学習会などでのプレゼンテーション用に、映画を再編集した38分バージョンを製作。DVD販売のポスター・チラシをクリニックや公民館等に掲示、市内くまざわ書店での取り扱いも開始。11月より販売とプレゼンテーションを展開し、120本(内30本未回収/2010.3.31現在)販売。

総事業費	1,694,104円
補助対象経費	1,166,667円
補助額	700,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	あまりできなかった
あまりできなかった理由	上半期、いろいろな団体との共催上映会を仕掛けたが、費用等の折り合いがつかず回数と観賞者数を伸ばすことができなかった。
計画時に期待した効果をあげることはできましたか	あまりあげられなかった
期待した効果が、あまりあげられなかった理由	主催または共催上映会は、施設と設備の確保、さらに宣伝と準備が大がかりとなってしまう期待どおりにいかなかったが、DVD 販売による新たな展開が期待でき、第2ステージとしての発信・開拓ができると考えています。
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	観賞された市民の方からはもっと多くの人にとの感想が多かった。特別養護老人施設での出張上映の希望、大学院ゼミでの研究題材としての上映の希望があった。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	下半期からの DVD 製作・販売と学習会などのプレゼンテーション用 38 分バージョンの再編集は、今後、市内外への発信ツールとして非常に有効。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	上映会という人を集める手法からの転換、38 分バージョンによるプレゼンテーションと DVD 販売は外交的でリーズナブルなので、今後の収益と全国への展開がしやすいと考えます。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
DVD 売上げ	256,660 円	90 本
自己資金(負担)	210,007 円	
まちづくり事業補助金	700,000 円	
収入合計	1,166,667 円	

< 支出の部 >

講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスターの作成費や印刷費、消耗品等	149,291 円	チラシ・ポスター印刷、事務用品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託	779,813 円	D V D 製作費 1,307,250 円の内、市は、770,813 円を補助対象経費として算定した。
機器類の賃借(レンタル)料等	105,000 円	映画テーマ曲使用料
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
その他必要な経費	132,563 円	H P 管理、広告宣伝、通信料等
補助対象経費合計	1,166,667 円	

事業名	学校にホタルを蘇らし、環境保全に取り組もう
団体名	東寺方自治会
事業の目的	学校でのホタルの復活を通じて、より住みやすい自然環境を取り戻すとともに子どもたちに命の大切さを認識させる。あわせて地域連帯の絆を強固にしたい。
主な事業実施内容	4月4日:東寺方小学校谷戸池の整備(土盛、柳植え) 4月5日:桜祭で“福ホドル”200個販売 6月7日:ゲンジホタル7匹飛翔確認 6月22日:ホタルの夕べ(250名の親子参加) 6月24日:大栗川を越えた住宅の浴室窓でホタル確認 7月7日:ヘイケホタル1匹確認
参加者	ホタルの夕べに250名の家族が集まる。東寺方小学校世話人会、東寺方青少協、若竹会、東寺方自治会
事業の成果	役員がわかりやすく“ホタルの一生”やホタルの特徴を説明するとともに、自然環境の大切さと命の尊さも訴えた。参加者は数少ないホタルに歓声をあげていた。ホタルの夕べには250名が参加し、大成功で終了。 多摩第二小学校にホタルを提案したが、校舎立て替え問題があり、ひとまず棚上げとなる。和田中学校は理科の担当教師と2年間にわたり交渉しているが、生態系の絡みで了解をえられず。

総事業費	34,297円
補助対象経費	34,297円
補助額	20,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	自然や環境に対する会員の意識が高くなりつつあるのを実感できました。特にホタル復活についてはホタルの夕べを通じてニーズがより高まっていると痛感しています。今後も地道に取り組みたい。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	ホタルの飛翔とホタルの夕べは評価できるが、他の学校への取り組みについては反省し、多角度から再検討して再度トライしたい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	東寺方小学校だけでみれば、福ホドルの販売も順調であり来年は十分自立可能であると思われます。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	14,297 円	
まちづくり事業補助金	20,000 円	
収入合計	34,297 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	34,297 円	谷戸池浄化のためのクレソン、せりなどの消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	34,297 円	

事業名	こども古典芸能体験教室
団体名	多摩市古典芸能に親しむ会
事業の目的	古くから受け継がれてきた優れた伝統文化である古典芸能を体験することで、伝統文化に対する関心を深め、豊かな感性を育むことを目的とする。
主な事業実施内容	5月8日:チラシ作成・配付 東愛宕中学校:中3 選択音楽 青陵中学校:中2・中3 選択音楽、中2体験授業 多摩永山中学校:中1・中2 体験授業 北豊ヶ丘小学校:小6体験授業 南鶴牧小学校:5・6年生 大松台小学校:5・6年生
参加者	中学校3校、小学校2校(延べ約800名)
事業の成果	小学校・・・三味線、太鼓の体験。 中学校・・・選択音楽の生徒は、半年あるいは1年間和楽器を練習したので、高度な曲をひけるようになり、合唱コンクールや学習発表会で演奏した。 必修の時間ではほぼ全員が「ほたる、かごめ、さくら」などを弾けるようになった。 達成感をもった。

総事業費	1,330,984 円
補助対象経費	1,330,984 円
補助額	399,000 円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	期待した効果があげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	教育現場でも益々必要になってきている。 指導要領(23年度から)にも重点を伝統文化に置いている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	インフルエンザの流行で、学校側のスケジュールがタイトだったので、参加校は少なかったが、実施校では大きな成果をあげた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	資金の調達に努力を要する。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
参加者負担金	20,000 円	
協賛金	450,000 円	
自己資金(負担)	461,984 円	
まちづくり事業補助金	399,000 円	
収入合計	1,330,984 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	1,200,000 円	10,000 円 × 120 回
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	30,864 円	チラシ印刷、教材用バチ・糸、封筒代
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	100,000 円	三味線レンタル
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	120 円	通信費
補助対象経費合計	1,330,984 円	

事業名	市民がつくる生活安全・安心ガイド事業
団体名	NPO法人 多摩サロン
事業の目的	コミュニティの安寧は、生活環境の基盤整備であり、市民自ら取り組む意欲が求められる。そこで本事業は、市民の手でITを利用するポータルサイトを構築し、市民に開放することを目指す。具体的にはまず防犯・防災・緊急医療など「いざというとき」に役立つ情報を、他の団体と協働しながら作成することとする。
主な事業実施内容	5月31日:理事会で方針決定 7月11日:定例会で方針の深化 7月18日:市担当者と内容の修正協議 7月28日:ネットcommons講習会に参加 9月9日:防犯講演会、HP委託業者のSITAと打ち合わせ 10月9日:健康医療講演会 2月27日:防災・緊急医療の画面編集 3月10日:SITAと画面編集
参加者	
事業の成果	21年度は上記3分野におけるサイトの開発を、市民団体と協働しながら進めた。その結果、概ね予想する程度のシステムを作成できたものと思われる。 しかし、この種サイトが機能を発揮できる真の成果とは、開発サイドの判断ではなく、それを利用する一般市民の評価にかかっている。この点で、現時点ではいまだ完成したというものでなく、プロトタイプができあがったというレベルといえる。今後市民の意見や評価などを取り入れながら、漸次改善を進め、内容の充実をはかっていくつもりである。

総事業費	1,032,314 円
補助対象経費	825,650 円
補助額	495,000 円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ

多摩市民がつくる
生活安全・安心マップ

ホーム
施設情報
防災
観光
ボランティア
生活
健康・医療
おすすめの情報
お問い合わせ
お問い合わせ先

ごあいさつ
～プロジェクトの充足にあたって～

このたび、多摩市の平成21年度市民協業型まちづくり事業補助金事業として、「市民による生活安全・安心マップづくり」のプロジェクトがスタートすることになりました。

このプロジェクトでは、インターネットを活用して、市民生活の安全・安心に係わる情報を、いつでも、どこでも利用でき、かつ随時、市民参加型で提供・更新できるようにポータルサイトの構築を目指しています。

地域の皆様やボランティア団体、企業、行政の方々のご協力とご支援をお願いするとともに、このサイトが市民のみならずの生活安全・安心に寄与できれば幸いです。

事務局：特定非営利活動法人 NPO多摩サロン

多摩の野鳥：ルリビタキ
全長:約14cm
体色:青い色・黄色
季節:11月～4月

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	開発サイドとしては、市民ニーズが高いものと期待しているが、今後システムを整備公開のうえ、市民の意見や指摘を取り入れ、修正することによって、目的に叶う内容にしていきたい。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	ハード事業のごとく、事業が終了すれば完成という性質のものではなく、市民のニーズにできるだけ適合させるよう努力を続け完成させていく必要がある。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	22年度は、他の市民団体と協働しながら、介護、バリアフリー、医療機関など、さらに広範な分野にも生活の安全・安心にかかわるサイトの開発を進める予定である。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	330,650 円	
まちづくり事業補助金	495,000 円	
収入合計	825,650 円	

< 支出の部 >

人件費	90,000 円	自治体のサイト調査、データ入力など
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	57,600 円	講習会、シンポジウム参加に係る講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	109,765 円	サーバー用PC、インク、用紙、参考書、その他事務用消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	545,650 円	ホームページ作成技術支援、動画作成、マップ、イラスト、デザイン料その他
機器類の賃借(レンタル)料等	8,430 円	レンタルサーバー、ドメイン
イベントなどの会場等の使用料	13,575 円	集会、学習会
保険料等	0 円	
その他必要な経費	630 円	振り込み手数料
補助対象経費合計	825,650 円	

事業名	多摩市におけるトラベルボランティア組織活性化事業
団体名	特定非営利活動法人 ジャパン・トラベルボランティア・ネットワーク
事業の目的	<p>旅はリハビリであり、生きるエネルギー源である。日本人のどの世代でも余暇にしてみたいことの第1位は旅であるという(レジャー白書)。</p> <p>高齢者、障がい者、闘病者は外出困難者である。これらの人々が家族や身内にささえられなくても、車いすを操作したり、盲導犬を連れて気軽に外出、さらには排泄、入浴、ねがえり介助を必要とする重度障がい者が宿泊を伴う旅にでかけられるよう、社会の側にその旅を手助けする旅専門の介助者を養成し、登録し、多摩市を中心に組織化することを主目的とする。介護保険では現段階で外出や旅はカバーされない。いずれ利用費用に公費補助がなされることを希望するが、仕組みを先行してつくることを目的とする。</p>
主な事業実施内容	<p>5月16日:トラベルボランティア養成講座・実践移動講座(築地・浅草・巣鴨)</p> <p>12月1日:トラベルボランティア養成・集中講座(東京ボランティアセンター)</p> <p>1月23日~25日:トラベルボランティア養成実践移動講座(東海道五十三次:日本橋・箱根・三島・島田・赤坂宿・草津・大津・京都三条大橋・北野天満宮)</p> <p>3月6日:キックオフ講演会「野口冬人氏:からだに効く 源泉・秘湯・湯治旅のすすめ」(関戸公民館)</p> <p>実践移動講座の出発・帰着地は聖蹟桜ヶ丘にした。</p>
参加者	<p>実践移動講座:40名(講師・コーディネーター6名含む)</p> <p>集中講座(座学):34名</p> <p>実践移動講座:11名(講師・コーディネーター4名含む)</p> <p>キックオフ講演会:38名</p>
事業の成果	<p>1年間、多摩市での取り組みを経験していく中で、軽い障害の人だけが旅に出られたらいいのかという問題にぶち当たった。代表のおそどは2年がかりで介護福祉士の資格にもチャレンジしている。というのも、軽い障がいの人を旅先サポートするのは、一般の善意のある人でもできるが、重度障害があり、排泄、入浴、寝がえりを自分でこなせない人も旅にでかけられるようにするには、福祉の素養のある上級トラベルボランティアを養成し、ボランティアのレベルではなく、仕事としてきちんと報酬を得て引き受けるというスタンスも大切であると考えたのだ。排泄の世話を誰も無償では取り組めない。取り組んだとしても続かないし、重度障がいのある人を旅に連れ出すには、善意だけではどうにもならないのである。</p> <p>さらに、旅専門の介助者は、福祉の現場と異なり、初めての場所で、初対面の人の車いすを押したり、盲導犬使用者を手引きしたり、移動しながら介助するという、高度のレベルも求められる。外国の場合は言葉のサポートも加わる。そのうえ、より素晴らしい旅をさせるべく旅をクリエイティブする役割ももつ。そのエネルギーを最後まで低下させてはならない。だから、福祉のスキルと旅の両方に精通していることなどが求められる。また、旅の途中での事故や怪我等のリスク回避については、旅行損害保険をトラベルボランティア(旅先介助者)と旅する当事者がそれぞれ掛けることで金銭的なリスクはカバーされる。考え方としては、旅する責任はどんなに障害が重くても旅する主体は旅に出掛ける当事者本人であり、その人の自己決定、自己判断、自己責任であることを明確にした覚え書きをかわすことも必要である。多摩での取り組みを礎として、日本の地域へと広げていきたい。</p>

総事業費	1,591,338 円
補助対象経費	1,343,438 円
補助額	784,000 円

補助対象経費の決算内訳は、
次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	聖蹟桜ヶ丘発着の実践移動講座にパーキンソン病の人もご主人が車いすを押して、バスまで見送られた。また、帰宅時も迎えに来られた。障がい者が単独で参加できる旅はまずないので、良かったと思われる。様々な障がいのある方と健常者が混在するリフトバスによる旅(実践移動講座)は多摩市では初めての取り組みであると聞いた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	多摩市民とプレゼンテーションでした約束を果たせて本当に良かったと思っている。まちづくり事業補助金はリタイヤした後とか、夫の収入があるとか、金銭的にゆとりがないとできないことを知った。JTVNは貧乏な法人ゆえ、苦しかった。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	前例のない事業ゆえ、実績や経験値を積んで粛々とノウハウをためていくしかない。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
事業参加料	523,162 円	参加料から補助対象外経費を除外した分
自己資金(負担)	36,276 円	
まちづくり事業補助金	784,000 円	
収入合計	1,343,438 円	

< 支出の部 >

人件費	75,000 円	移動講座・準備及び当日手伝い
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	215,666 円	各講座、講演会講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	110,881 円	チラシ・ポスター用紙、インク、看板等
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	673,040 円	リフト付バス借り上げ料2回分
イベントなどの会場等の使用料	1,600 円	講演会会場費
保険料等	0 円	
その他必要な経費	267,251 円	通信費、駐車場、雑費等
補助対象経費合計	1,343,438 円	

事業名	第19回映画祭TAMA CINEMA FORUM
団体名	TAMA映画フォーラム実行委員会
事業の目的	この事業の目的は二つ。「市民による日本映画の活性化」と「『映画・映像』を通じた“まち”づくり」である。前者は 創り手と観客の交流、市民の手で才能ある若手映像作家の発掘、映画関係者と映画ファンの交流、などを行う。後者は映画・映像を通して幅広い市民層の交流をはかることにより「市民の広場」としての役割を果たす。このことにより映像の街・TAMA を全国にアピールし活気あふれるまちづくりに貢献していく。
主な事業実施内容	11月21日～11月23日：映画上映及びトーク<バルテノン、ヘルプ、ヴィータ> 11月25日～11月27日：映画上映<ベルプ> 11月28日～11月29日：映画上映及びトーク<バルテノン、ヘルプ、ヴィータ>
参加者	延べ13,868人
事業の成果	<p>延べ参加人数は昨年よりも約3,000人減少した。これは昨年までのメイン会場である「やまばとホール」が無くなった要因が大きいと考える。しかし、一日のプログラムを1部/2部と分けることや延べ50名を超えるゲストを迎え、トークやティーチンを行い、「作り手と観客との対話の場」が華やかに行われた。プレビュー上映や他の映画祭とのコラボ企画など、イベント性を持つ企画は、観客との生の触れ合いの場を提供することで、さらなる成果があった。市民が中心となって運営している全国の映画祭の中での位置として、延べ入場者数や上映本数といった規模から本映画祭が全国の上位に位置することには変わりはないと推察する。</p> <p>TAMA NEW WAVE 関連の企画では、若手作家と観客との交流が新たな創作意欲を引き出し、次に繋がる役割を果たしと言える。さらに「明日への元気を与えてくれる・夢をみさせてくれる活力溢れる<TAMA 映画賞>創設」により、映画祭全体を盛り上げ、映画・映像を通じた文化のまちづくりに貢献できたと考察する。映画という幅広い年齢層に訴求する娯楽・芸術を提供し、“まちづくり”への市民参加を促す意味でも本映画祭のコンセプトである「FORUM = 広場」が果たした役割は大きいのではないかと自負する。</p> <p>また、第2回 TAMA NEW WAVE グランプリを受賞した監督による多摩市で撮影した作品「60歳のラブレター」が<TAMA 映画賞>で受賞したことは、映画祭として且つ多摩市としても大いに励みになる。若手作家の育成・支援から劇場公開や映画賞受賞など一連の流れは、“多摩”よりの発信から“多摩”へホームバックにつながり、映画祭がシティセールスの役割に寄与していると確信する。</p>

総事業費	12,229,291円
補助対象経費	11,297,291円
補助額	2,000,000円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



2009年度 TAMA 映画賞授賞者



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	毎年の晩秋の風物詩として楽しみにしている市民が増えている、1年間の集大成として質の高い作品が見られるので、これからも続けてほしい、東京都多摩市といったら“芸術の街=映画祭のまち”と日本中に認知してもらうことで多摩市の知名度を上げてほしい、等の要望が寄せられている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	今年から設けた「TAMA映画賞」により、より一層映画祭としての知名度が上がり、映画界はもちろん全国の映画ファンにも浸透して高い評価を得られたものと自己評価する。これは多摩市民のみを対象にする事業が多い中で文字通り多摩市発の唯一の全国向け事業として評価できると思う。伝統的なイベントのない多摩市において、この映画祭を継続的に開催することで、全国に誇れる多摩市の“街”の顔となりつつあると確信している。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	多摩市民はもちろんのこと、全国の映画ファンに愛され協力いただけるような運営を心がけていく。そのためには映画祭として、より一層知名度を高め映画関係者の協力を得やすくしていく。また、経費を削減しても集客力を高められるような広報活動を充実していく。具体的には前者は支援会員制度の普及や地元企業を中心としたサポーター制度の確立であり、後者は経費を掛けない広報宣伝活動の工夫である。その他に開催期間を短期集中型に変えることで凝縮した企画で費用対効果を上げていくと共に近隣市への支援の働きかけもしていく。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
入場料	5,178,900 円	
支援金	2,600,000 円	文化庁国内映画祭支援
協賛金	896,000 円	
販売収入	118,400 円	パンフレット等売店売上
広告料	250,000 円	名刺広告料
自己資金(負担)	253,991 円	
まちづくり事業補助金	2,000,000 円	
収入合計	11,297,291 円	

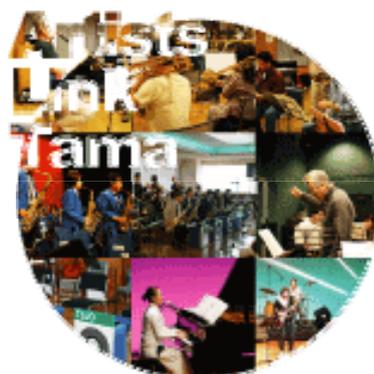
< 支出の部 >

講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	1,194,500 円	ゲスト出演、司会者謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	2,447,620 円	印刷、会場設営、記録、宣伝
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	1,020,137 円	映写、記録、会場設営、宣伝
機器類の賃借(レンタル)料等	5,412,730 円	映写機材借上、フィルム借上
イベントなどの会場等の使用料	261,800 円	パルテノン多摩・施設備品使用
その他必要な経費	960,504 円	駐車場、チケット販売手数料、通信、フィルム搬送、振込み手数料等
補助対象経費合計	11,297,291 円	

事業名	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクトver4.0
団体名	Artists Link Tama
事業の目的	<p>我々は「多摩の音楽」を起爆剤として、まちづくりを支援していきたいと考えております。</p> <p>現在、多摩市内で数多くのまちづくりのための事業が行われています。1つ1つの事業は、それぞれ成果を上げているとは思いますが、主催や所管が異なることで、横のつながりに乏しく、街全体の、そして継続的な大きなうねりとまでは至っていないように感じています。</p> <p>その原因は、1つには事業・団体間の横のつながり/ネットワークの不足、もう1つには多摩として人を呼び込むような共通のアイデンティティの不明瞭さ、です。</p> <p>そこで我々は、「多摩の音楽」を1つのアイデンティティとして内外へ積極的に発信していくことで多摩像を創り上げ、かつその「多摩＝音楽に溢れた街」というイメージを、地元の各団体の事業にどんどん活用化していただけるような横のつながり/ネットワークを構築していくことを最大の目的としております。</p> <p>具体的には、まず我々が主体となって、商店街をはじめとする団体と連携しながら、地元音楽家やミュージシャンを集結したイベントを実施し、多摩の活性化を支援します。</p> <p>また、現在行われている、あるいはこれから新たに行われる数多くの事業にも「音楽」を活用して集客効果を上げていただけるように協力していきます。</p>
主な事業実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日のビッグバンドの練習 ・5月30・31日：たまにはスイング Jazz オーケストラ（パルノ多摩） ・8月8日：特別養護老人ホームひかり苑サマーコンサート ・8月8日：和太鼓「響」第1回自主公演運営協力（八王子） ・9月27日：永山フェスティバル（バルブ） ・11月8日：第5回せいせきハートフルコンサート（共催） ・11月28日：ラスターウィンドアンサンブル定期演奏会（ヴィータ） ・12月12日：VITA Christmas JAZZ Night! Vol.2（ヴィータ） ・2月28日：第3回多摩スイングジャズオーケストラ 定期演奏会（企画・制作）
参加者	約5000名
事業の成果	<p>今年度の成果として、大きく2つある。一つはビッグバンド運営を円滑に進められ、市民の方に向けた成果発表ができたこと。もう一つは自主イベント開催のノウハウ蓄積と課題点の明確化である。</p> <p>ビッグバンドは3回目の定期演奏会を開催したこと、日々の練習の成果が伝わり、福祉施設でのお祭り、小学校での演奏会への出演依頼や永山フェスティバルでの大トリを務めるなど、多くの方々にスイングジャズを楽しんで頂けた。また、多摩の他のビッグバンドとのジョイントコンサートを初めて行うなど、新たな試みも始めている。2010年2月28日に開催した第3回定期演奏会では、初めて有料にしたにもかかわらず、180名を越えるお客様がヴィータホールにご来場いただいた。</p> <p>一方、昨年度の課題とした、各イベントの規模の拡大により、更なる集客、地域への還元については、ある一定の成果は出ていると考える。しかしながら、まだまだ不足している部分も多い。今後はアーティストリンク多摩の組織体系の見直しもさることながら、街づくり団体の在り方についても議論していき、新たな道を模索したいと考える。</p>

総事業費	1,488,942 円
補助対象経費	1,473,082 円
補助額	630,000 円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることはできましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	質の高いパフォーマンスに対しては対価を支払ってもいいという感触を受けた。また、まちづくり自体への関心が、全体としては低い印象で、関心がある人とならない人の温度差が大きい。 また、やまばとホールが閉館したことにより、中規模のホールがなくなり、観客の規模に恵まれなくなりそうである。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	イベントの実施・運営等のノウハウは市民団体としては、十分蓄積することができつつあると評価している。また、音楽を楽しむ場の提供として、ビッグバンドの運営も一般的な社会人バンドとは異なり、当団体がプロデュースを手がけることで、場の提供だけでなく、地域への還元活動へも目を向けることが出来、非常によい方向に進んでいると評価している。 さらに、当団体が認知されてきていることによる、依頼等も増加しつつあり、地域に根差した活動となっていると評価する。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	来年度は最終年度になるが、収入も安定化しつつあり、今後はコストをかけずにアイデアによる質の向上を図りたい。また、当団体として、ビッグバンドは非常に優良なコンテンツに成長したので、うまく活用し、地域に根差した愛されるバンドにしていく必要があると考えている。 また、今後のまちづくり活動について、今一度、当団体としても考える必要があり、継続の方向だが議論の余地はあると考える。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
協賛金	30,000 円	5 月 31 日イベント
チケット販売収入	20,000 円	5 月 31 日イベント
運営委託費	594,570 円	5 月 31 日イベント・11 月 8 日イベント
自己資金(負担)	198,512 円	
まちづくり事業補助金	630,000 円	
収入合計	1,473,082 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	406,000 円	アーティスト謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	214,902 円	チラシ印刷、ポスター印刷、新聞折込、広告、記録、コピー、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	267,550 円	イベントPA費用、記録費
機器類の賃借(レンタル)料等	45,000 円	楽器レンタル
イベントなどの会場等の使用料	535,750 円	民間施設、公民館
その他必要な経費	3,880 円	通信費、演奏使用料
補助対象経費合計	1,473,082 円	

事業名	貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり
団体名	貝取こぶし館 緑花委員会
事業の目的	貝取こぶし館内外の環境美化をすすめ、利用者および地域住民の四季折々の安らぎの場となることを目的とする。
主な事業実施内容	緑花委員会 通常第2日曜日、多忙期は第4水曜日を追加して活動 9月27日:グリーンライブセンターの方に来ていただき勉強会を行った。
参加者	貝取こぶし館利用者及び団体、付近を通る住民等多数 緑花委員会は、各回10名
事業の成果	花壇も整いきれいな花を咲かせることができ、皆さんに喜んでいただきました。

総事業費	128,214 円
補助対象経費	128,214 円
補助額	76,000 円

補助対象経費の決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねあげられた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	皇帝ダリアの根をいただき秋が楽しみ。 特に最近きれいになったと言っている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	緑花委員会の人々が暑い夏、寒い冬も花の気持ちになって頑張っていた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	こぶし館の行事に合わせて苗等を作り販売を考えている。

補助対象経費の決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	52,214 円	
まちづくり事業補助金	76,000 円	
収入合計	128,214 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	128,214 円	花苗、用土、肥料、用具、その他
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
補助対象経費合計	128,214 円	